

芸術学特論 (AFM11)

通年

Advanced Arts Study

大学院 美術専攻 (修士課程)

年次	1年
対象	22～19 FM
単位数	2.0単位
担当教員	 川上幸之介  崔敬華  良知暁  Andrew MAERKLE

授業の概要

本講では、川上 (本学芸術学部) コーディネートの下、崔 敬華先生、良知 暁先生、Andrew MAERKLE先生が、各々授業の前半と後半を担当し授業を開催する。現代アートに影響を与えている、思想、美学、キュレーションを学び、現代アートの新たな展開を論究し、作品を構成する要素をさまざまな角度から再点検する。

崔 敬華

・2000年代以降のアジア太平洋地域における現代美術の潮流を辿るため、いくつかの展覧会やビエンナーレを取り上げ、それぞれの展覧会や展示作品が、グローバルな美術の言説や、それぞれの社会の政治文化的状況にどのように呼応しているものなのかを、レクチャーとディスカッションを通じて考察する。

良知 暁

・「芸術としての歩行は、わたしたちの振舞いのもっとも素朴な様相への注意を呼び覚ます。」(レベッカ・ソルニット)
現代美術を中心とした表現を、「歩行」をはじめとする日常的な行為、身振りを糸口に話し合いや調査、行為の実践を通じて考察し、自分たちの日常的な行為、身振りの中に表現の可能性を想像する。

Andrew MAERKLE

・現代アートにおける現代性と同時代性について考古学的に考察し、歴史と記録、証言のありかたを追求する。一見、自明性とと思われるものの裏側にある不安定なものも、その構築性と共に考える。

到達目標

川上幸之介

・現代社会における、芸術の役割を理解する。

崔 敬華

・現代美術が拡張しつつある中、その世界的な流れに対応しながら、そして時には拮抗しながら、アジア太平洋地域の現代美術がどのように変化しているかを知る。

・議論を通じて、アーティストやキュレーターが、時代と場所にどのように関わり、応答するのかを分析し、その方法論や批評性について理解を深める。

良知 暁

・無意識のうちに分類している美術制度の内と外にある知識や体験の関係性を意識し、その関係性を結び直す習慣を身につけ、制作や鑑賞を含む日々の実践に活かす力を培う。

Andrew MAERKLE

・グローバル時代における現代アートの同時代性、現代性を批評的に理解する。

評価方法

川上 幸之介

・授業態度 50% 作品 50%

崔 敬華

・授業でのディスカッション（50%）、レポート（50%）

良知 暁

・授業の議論への参加（60%）レポート（40%）

Andrew MAERKLE

・授業への積極的参加 レポートA4一枚。

注意事項

特になし

崔 敬華

・アジアの現代美術について全く知らなくても構いません。

授業計画

川上 幸之介

1. オリエンテーション

崔 敬華

1. アジア太平洋地域の現代美術の急速な変化と発展について問われる「現代性」
2. アジア太平洋地域の美術における「ローカル」「グローバル」とは何か？
3. アジア太平洋地域の現代美術交流とキュレーションについて
4. キュレトリアルとはどのような実践か？ I
5. キュレトリアルとはどのような実践か？ II

良知 暁

1. 現代美術と日常的な行為、身振りに関する概論
2. 複数の事例を取り上げ、様々なアプローチで考察する
3. レポートを基にした話し合い、相互フィードバック
4. 再度、複数の事例を取り上げ、自身の制作／生活を踏まえて考察する

Andrew MAERKLE

1. 「未来派宣言」を読み上げる。ディスカッション
2. 日本近現代美術の同時代性を再考するディスカッション
3. 「シヨア」 上映
4. 「シヨア」 ディスカッション
5. EEE 特別ゲスト レクチャー

授業外学習

川上幸之介

・授業に出てくるキュレーターがキュレーションをする国際展を重点的に調査すること。

崔 敬華

・アジア太平洋地域で行われている展覧会や、美術館、アーティストによるイニシアチブ等を取り上げ調査し、レポートを提出。

良知 暁

・前期（2コマ）終了から後期（2コマ）が始まるまでの間に、レポートを提出すること。（レポートの内容や提出方法は前期授業内で説明する）

Andrew MAERKLE

・事前に授業で扱う文献の指定箇所を読んでおくこと。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

川上幸之介

- ・使用する文献の一部はコピー等で配布する。

崔 敬華

- ・参考文献を適宜配布します。

良知 暁

- ・ジェームズ・C・スコット『実践 日々のアナキズムー世界に抗う土着の秩序の作り方』レベッカ・ソルニット『ウォークス 歩くことの本質』その他適宜紹介

Andrew MAERKLE

- ・「On Exactitude in Science (科学の厳密さについて)」ボルヘス
- ・「未来派宣言」 フィリッポ・トンマーゾ・マリネッティ 森鷗外 訳
- ・「マツタケー不確定な時代を生きる術」アナ・チン
- ・「ディクテ - 韓国系アメリカ人女性アーティストによる自伝的エクリチュール」 テレサ・ハッキョン・チャ

備考

年次	1年
対象	22～19FM
単位数	2.0単位
担当教員	松岡智子

授業の概要

フランスは19～20世紀半ばまで西洋における芸術運動の中心的な存在であり、印象派後も世紀末アカデミズム、新印象派、ポスト印象派、ナビ派、象徴主義、素朴派、野獣派、立体主義、ピュリスム、ダダイスム、シュルレアリスム、アンフォルメル等といった新運動の発信地となり、多くの外国人芸術家たちを引き寄せたことはよく知られている。わが国においても明治以降、フランスに留学した日本の芸術家達や雑誌、単行書、画集などの出版物、西洋美術のコレクションの形成等を通じて、フランス近代美術が我が国に次々と紹介され大きな影響を受け、現在でも美術館で開催されるフランス美術、とりわけ印象派、ポスト印象派をテーマとした展覧会には多くの来館者が訪れている。

日本美術史特論では日本人作家による絵画、彫刻、工芸、建築、デザイン、写真など様々な領域を通して、彼らがフランスの美術をいかに受容し新たな芸術を創造したかについて、社会的背景も視野に入れながら個々の作家やその作品及び芸術運動を概観するものである。

到達目標

- 19～20世紀における日本美術について、フランス芸術の「受容」の側面から考察し説明できる。
- これまでの美術史学における受動的な「受容論」、「受容研究」にとどまらず、従来の「影響論」ではない新たな創造行為に重心をおいたポジティブな「受容研究」の立場から、日本の美術について論述することができる。そのため日仏の歴史的な背景や政治及び文化の力学についても関係づけることができる。

評価方法

19～20世紀半ばの日本においてフランス美術の影響を強く受けた作家や芸術運動を選び、その「創造的受容」について4000字程度でまとめたレポート70%(到達目標2を評価)。また、関連する作品を必ず美術館等で見て研究し、以上のレポートの内容に基づいたプレゼンテーション30%(到達目標1を評価)により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- レポート作成においては、様々な文献にあたり、作成上の基本的ルールを守り、特に引用した部分は明示しておくこと。
- レポートの提出期限を厳守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	受容美学とは
第2回	高橋由一の時代
第3回	日本近代洋画にフランス絵画がもたらしたもの(1) アングル、ドラクロワ、ミレー、クールベの場合
第4回	日本近代洋画にフランス絵画がもたらしたもの(2) 印象派の受容
第5回	日本近代洋画にフランス絵画がもたらしたもの(3) モリゾ、スーラ、ドニ、ピカソの場合
第6回	日本におけるアール・ヌーヴォー、アール・デコ
第7回	日本におけるマン・レイ
第8回	「美術館」の夢—大原孫三郎と松方幸次郎
第9回	国画創作協会の画家たちとフランス近代絵画
第10回	藤田嗣治について
第11回	岡鹿之助について
第12回	須田国太郎について

回数	内容
第13回	パリの薩摩次郎八、福島繁太郎
第14回	「前衛」の到来
第15回	まとめ

授業外学習

- ・ 自学自習が基本であることを十分認識し、提示している教科書や参考文献を積極的に読むこと。
- ・ 専門分野の最新の情報を学術雑誌や展覧会図録等から収集するとともに、複数の美術館で多くの作品を見ることに努めること。

教科書

辻惟雄『日本美術の歴史』東京大学出版会、2012年、4-13-082086-8

参考書

兵庫県立美術館編『美術館の夢 松方・大原・山村コレクションでたどる』兵庫県立美術館、2002年、柴田三千雄、樺山紘一、福井憲彦編『世界歴史体系 フランス史3-19世紀なかば～現在-』山川出版社、2006年、宮崎克己『西洋絵画の到来 日本人を魅了したモネ、ルノワール、セザンヌなど』日本経済新聞出版社、2007年、永井隆則編『フランス近代美術史の現在 ニュー・アート・ヒストリー以後の視座から』三元社、2007年、『美術フォーラム21(特集：日本におけるフランス-創造的受容)』(vol.23)、2011年

備考

日本美術史特論演習 (AFM13)

後期

Advanced Study of Japanese Art History

大学院 美術専攻 (修士課程)

年次	1年
対象	22～19FM
単位数	2.0単位
担当教員	松岡智子

授業の概要

日本の20世紀芸術について、「美術」(絵画・彫刻・工芸)のみならず、写真、デザイン、パフォーマンスアート、いけばな、書、ミュージアム建築、実験映像、アニメーション、マンガに至るまで幅広くジャンルを横断して、わが国の視覚芸術をトータルに俯瞰する。

到達目標

- わが国における近・現代の視覚芸術全般にわたって、それらの相互の関係と展開を歴史的な視点で俯瞰することにより、明治以降100年の日本の近・現代美術史を立体的に捉えなおすことを試み説明できる。
- 幅広く多様な視点から芸術を捉え直して得た新知見を論述することができる。

評価方法

2回のレポート提出(到達目標2を評価、2000字程度の美術館見学に関するレポートおよび4000字程度の期末レポート)(70%)と、プレゼンテーション(到達目標1を評価)により、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- 受講状況と授業中のプレゼンテーションを重視するので、意欲的に参加すること。
- 日本の近・現代美術を考える場合にも、諸問題の震源地として西洋の動向を知ることが不可欠であるので、双方へ関心の幅を広げる必要がある。
- レポート作成においては様々な文献に当たり、作成上のルールを守り、特に引用した部分は明示しておくこと。
- レポートの提出期限を厳守すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	導入としての日本近代美術史
第3回	1920年代; 芸術の大衆化
第4回	1930年代; モダニズムと日本的なもの
第5回	1940年代; 戦争下・占領下の芸術家たち
第6回	1950年代; 日本美術の国際進出
第7回	1960年代(1) 視覚と認識の変革—オブ・アート、キネティック・アート、ジャンク・アート、コンセプチュアル・アート
第8回	1960年代(2) 社会状況の大変動と芸術—パフォーマンス・アート、アースワーク、アルテ・ポーヴェラ
第9回	1970年代(1) 高度資本主義社会と日本の美術
第10回	1970年代(2) インスタレーション、身体性、表現の多様化
第11回	1980年代(1) 新表現主義、ネオ・ジオ、シュミレーションニズム
第12回	1980年代(2) ポストもの派の台頭からバブル崩壊まで
第13回	1990年代(1) ネット社会とメディア・アート
第14回	1990年代(2) マルチカルチュラルイズム、現実への回帰、物語性への追求

回数 内容

第15回 まとめ—新世紀の幕開けと成熟する表現

授業外学習

- ・先に挙げた科書や参考書以外にも、関心のあるテーマに関する文献を多く読むこと。
 - ・テーマに即した展覧会を自主的に見学し、できる限り多くの作品を見ること。
-

教科書

監修：末永照和『増補新装カラー版 20世紀の美術』美術出版社、2013年、978-4568400854

参考書

高階秀爾『20世紀美術』筑摩書房、1993年、高階秀爾『日本美術を見る眼』岩波現代文庫、2009年、『現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで;世界と日本の現代美術用語集』美術出版社、2009年、監修：酒井忠康『日本の20世紀芸術』平凡社、2014年。

備考

西洋美術史特論 (AFM14)

後期

Advanced History of Western Art

大学院 美術専攻 (修士課程)

年次	1年
対象	22～19 FM
単位数	2.0単位
担当教員	神原正明

授業の概要

「ルネサンスの美術」

14世紀から16世紀に至るルネサンスの美術を、絵画を中心にたどる。ルネサンスはイタリアを中心に展開される美術運動だが、アルプスを越えてドイツや今のベルギー・オランダであるネーデルラント地方にまで広がっている。内容的にはキリスト教を土台にして、異教の神話や風景や風俗といった新たなジャンルも独立し始めてくる。具体的な作品を見ながら、キリスト教図像学の基礎知識も同時に学んでいく。

到達目標

- ・ルネサンスの時代に描かれた絵画作品を中心に、西洋美術史とキリスト教図像学の基礎知識を習得し、特定した時代への興味が深化できる。
- ・ルネサンスの作品を通じて美術史学の解釈の方法論を理解できる。

評価方法

毎週の授業に取り組む姿勢 (50点)、最終の研究レポート (50点)

注意事項

授業ではプロジェクターを用いるので操作方法に慣れておくこと。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.ジョットの時代とシエナ派 (イタリア編1)
- 3.15世紀前半のフィレンツェ美術 (イタリア編2)
- 4.15世紀後半のフィレンツェ美術 (イタリア編3)
- 5.ヴェネツィア派の展開 (イタリア編4)
- 6.レオナルドと盛期ルネサンス (イタリア編5)
- 7.ラファエロとミケランジェロ (イタリア編6)
- 8.マニエリスム (イタリア編7)
- 9.ファン・アイクと油彩画の出発 (北方編1)
- 10.15世紀のフランドル絵画 (北方編2)
- 11.デューラーとドイツ絵画 (北方編3)
- 12.ボスと北方マニエリスム (北方編4)
- 13.ブリューゲルと後期マニエリスム (北方編5)
- 14.バロック絵画の登場
- 15.まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・授業ではおもにオーソドックスなルネサンス全般の理解をめざすが、受講生は各自それを越えて特殊なテーマを見つけ、自発的に研究を進めて、レポートを完成させること。
- ・毎回の授業で扱われる作家と作品から興味のあるものを選び研究を進めること。
- ・キリスト教の主題やギリシャ神話の物語が多く登場するので、基礎的な知識を得ておくこと。

教科書

特に指定はしない

参考書

備考

西洋美術史特論演習（AFM15）

前期

Advanced Study of Western Art History

大学院 美術専攻（修士課程）

年次	1年
対象	22～19FM
単位数	2.0単位
担当教員	神原正明

授業の概要

「近代絵画論」

絵画を中心に19-20世紀の美術の思考をたどる。近代絵画史のイズムの変遷を理解し、その上で個々の画家の足跡をたどっていく。授業では毎時間まずはじめに、大まかなイズムの概説をし、その後各回で重要と思われる何人かの画家について、あらかじめ担当者を決めてその生涯と作品を解説する。担当者は画家の生涯や時代状況などについて調べ、主要作品を選定し解説する。一点の作品からいかに多くの問題を引き出してくるかが重要だ。なにが描かれているか、なぜそれを描いたか、どういうふうを描いたかなどを出発点に、イズムの変遷や社会思想にまで展開して欲しい。

到達目標

具体的な絵画作品を通して「芸術とは何か」という問いかけと造形思考を検証し、近代以降の制作者の方法論を理解できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢（40%）、研究発表（30%）、最終レポート（30%）

注意事項

授業はプロジェクターを用いておこなうので、画像を収集し、プレゼンテーションとパソコンの操作に慣れておくこと。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.新古典主義とロマン主義...ダヴィッド、アングル、ジェリコー、ドラクロワ
- 3.写実主義と印象主義...クールベ、マネ、ドガ、モネ
- 4.ポスト印象派...セザンヌ、ゴッホ、ゴーギャン、ルノワール
- 5.世紀末と象徴主義...クリムト、ムンク、ロートレック、ルドン
- 6.フォーヴィスムとキュビズム...マティス、ルオー、ピカソ、ブラック
- 7.エコール・ド・パリ...シャガール、モジリアーニ、フジタ、ユトリロ
- 8.ダダとシュルレアリスム...デュシャン、エルンスト、ダリ、マグリット
- 9.抽象...カンディンスキー、クレー、モンドリアン、マレーヴィチ
- 10.抽象表現主義...ポロック、ニューマン、ロスコ、デュビュッフエ
- 11.ネオ・ダダの系譜...、ジョーンズ、ラウシェンバーグ、クリスト、イブ・クライン
- 12.ポップアート...ウォーホル、リキテンスタイン、シーガル、ホックニー
- 13.ミニマリズムと概念芸術...ステラ、ジャッド、セラ、コースス
- 14.新表現主義とネオポップ...シュナーベル、キーフアー、パスキア、クーンズ
- 15.まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・授業で取り上げた個々の作家の足跡をたどる作家研究と、それぞれの時代の概念を反映した美術思想の基本的理解を高める。
- ・割り当てられた作家については、十分に準備して発表に備える。
- ・大原美術館をはじめ各地の美術館で行われる展覧会を訪れ、できるだけ多くのオリジナル作品に接すること。

教科書

特に指定はしない。プリントを用意する。

参考書

授業中に指示する。

備考

現代美術論 (AFM16)

後期

Contemporary Art Theory

大学院 美術専攻 (修士課程)

年次	1年
対象	22～19 FM
単位数	2.0単位
担当教員	 川上幸之介  上尾真道  松村圭一郎  Andrew MAERKLE

授業の概要

本講では川上（本学芸術学部）のコーディネートの下、上尾真道先生と松村圭一郎先生、Andrew MAERKLE先生が、各々授業の前半と後半を担当し授業を開催する。現代アートに影響を与えている、心理学、文化人類学、表象文化を学び、その思想と現代アートの新たな展開をつむぎだし、作品を構成する要素を再点検する。

川上 幸之介

- ・現代アートの文脈、歴史、構造を総合的に理解し、社会との相互関係を読み解くことで芸術の今後の展開を考察する。

上尾 真道 (心理学)

- ・この授業では、20世紀のフランスの精神分析家ジャック・ラカンの思想を参照しながら、現代の芸術について考えるための知識を提供する。とりわけラカンが関わったり、議論で取り上げたりした作家や作品について紹介しながら、その解釈について検討する。またラカン以後の精神分析理論の発展と現代芸術との関わりについても、素材を提供しつつ検討する。

松村 圭一郎 (文化人類学)

- ・人類学の理論を概説しながら、人類学的視点から芸術、美、表現、価値などについて再検討することを目的とする。

Andrew MAERKLE

- ・現代アートにおける現代性と同時代性について考古学的に考察し、歴史と記録、証言のありかたを追求する。一見、自明性と思われるものの裏側にある不安定なものも、その構築性と共に考える。

到達目標

川上幸之介

- ・現代社会における、芸術の役割を理解する。

上尾 真道

- ・ラカンの精神分析理論について基本的な概念を説明できる。
- ・ラカンの理論に依拠して、現代の具体的な作品について批評することができる。

松村 圭一郎

- ・人類学の視点を身につけ、あらたな芸術表現の可能性について、自分の考えを明確にすること。

Andrew MAERKLE

- ・グローバル時代における現代アートの同時代性、現代性を批評的に理解する

評価方法

川上幸之介

- ・授業態度 50% 作品 50%

上尾 真道

- ・期末レポート

松村 圭一郎

・授業への積極的参加（コメント内容・議論への貢献） 60% 最終レポート 40%

Andrew MAERKLE

・授業への積極的参加、レポート A4 一枚。

注意事項

・特になし

授業計画

川上幸之介

1. オリエンテーション

上尾 真道（心理学）

1. イントロダクション
2. シュルレアリズムとラカン 1.
3. シュルレアリズムとラカン 2.
4. ラカンのまなざし論 1. 絵画とシミ
5. ラカンのまなざし論 2. 遠近法について

松村 圭一郎（文化人類学）

1. レヴィ=ストロース『野生の思考』
2. ラトール『虚構の「近代」』
3. 中沢新一『芸術人類学』
4. インゴルド『メイキング』

Andrew MAERKLE

1. 「建築における『日本的なもの』」磯崎新 「ディクテー」 テレサ・ハッキョン チャ のディスカッション
2. 「S21 クメール・ルージュの虐殺者たち」リティ・パニユ 観賞
3. 「S21 クメール・ルージュの虐殺者たち」ディスカッション
4. アートにおける翻訳論とジェンダー
5. 作品講評

授業外学習

川上幸之介

・授業に出てくるキュレーターがキュレーションをする国際展を重点的に調査すること。

上尾 真道

・授業で取り上げた作家や作品について、美術館や書籍、インターネットなどでさらに調査すること。

松村 圭一郎

・事前に授業で扱う文献の指定箇所を読んでおくこと。

Andrew MAERKLE

・事前に授業で扱う文献の指定箇所を読んでおくこと。

教科書

適宜コピー等で配布する。

参考書

上尾 真道

ミシェル・デヴオー『不実なる鏡』（人文書院）

・ Steven Levine, Lacan Reframed, I.B.Tauris

松村圭一郎

・ 松村圭一郎『基本の30冊 文化人類学』（人文書院）

Andrew MAERKLE

「On Exactitude in Science（科学の厳密さについて）」ボルヘス

「未来派宣言」 フィリッポ・トンマーゾ・マリネッティ 森鷗外 訳

「マツタケー不確定な時代を生きる術」 アナ・チン

「ディクテ - 韓国系アメリカ人女性アーティストによる自伝的エクリチュール」 テレサ・ハッキョン・チャ

備考

日本画制作研究 I (AFM01)

通年

Japanese-style Painting Research I

大学院 美術専攻 (修士課程)

年次	1年
対象	22～20 FM
単位数	12.0単位
担当教員	森山知己

授業の概要

古典技法を研究することで、今日的な表現手法における日本画の持つ可能性を確認し、同時に実際の制作を通じて新たな独自表現を獲得することを目的としている。

自らの制作を深め展開していく上で必要とされる課題克服を、実施可能な研究計画として作成し、それを基に制作を行う。

到達目標

日本画の表現における材料・その使用の歴史の変遷を学び、現代の表現においてそれらを使用する意味を確認理解できる。

日本画の伝統と呼ばれる存在を検証する作業を通じて、現代美術表現としての日本画について考え、自身の制作を行うことができる。

評価方法

完成作品 60%

研究発表 (個展、展覧会出品、コンクール出品など)、研究資料作成 (調査研究) など 30%

レポート 10%

注意事項

展覧会見学、スケッチ等を実施する。

必要に応じて個別の課題を出す場合がある。

学外での調査研究を行うことがある。

授業計画

- 4月 オリエンテーション・研究計画についての検討
制作計画の立案
※作品資料 (作品またはポートフォリオ) の持参
- 5月 古典研究 (模写・描画技術など)・制作指導
研究課題に関する進行確認
- 7月 制作作品提出 相談・助言指導を行う
- 9月 古典研究 (模写・描画技術など)・制作指導
完成作品 講評会
- 11月 制作指導
前期制作作品の反省を踏まえた後期制作の展開について検討
- 1月 作品制作 指導
- 2月 完成作品プレゼンテーション 講評会

授業外学習

美術館・展覧会鑑賞を通じて様式、材料・技法に関する調査・確認を行う。

教科書

特に使用しない。

参考書

参考文献は課題、各自の興味関心に合わせて適宜紹介する。

備考

日本画制作研究Ⅱ（AFM02）

通年

Japanese-style Painting Research II

大学院 美術専攻（修士課程）

年次	2年
対象	21～19 FM
単位数	12.0単位
担当教員	森山知己

授業の概要

日本画制作研究Iで作成した研究計画に基づき制作の展開やさらなる進化を追求し、加えて視野を広げることで客観的な分析を自らに加え制作の広がり、思考の柔軟性にも配慮し探求することを目的とする。

到達目標

作品内容の深化に加え、ディスカッション、プレゼンテーションを通じての他者とのコミュニケーションにより、自身の思考の論理性、説得力、魅力を深める。

個展開催・展覧会出品・コンクール出品など、作品発表手法、またその形態の選択を通じて社会に対してのコミットを試みる。

修士課程の集大成として、今後の作家活動に繋がる修了作品の完成を目指す。

評価方法

修了作品 60%

学内外での発表（個展・展覧会出品など）・研究の様子（取り組み）・状況 40%

注意事項

展覧会や美術館の鑑賞などを行う場合がある。

必要に応じて個別の課題を出す場合がある。

学外での調査研究を行うことがある。

授業計画

5月 修了作品制作に向けての年間スケジュールの確認。

修了制作内容・プランに関する検討・相談

7月 作品制作経過報告 メール等で相談・助言指導を行う

9月 作品制作プレゼンテーション

修了制作プランに対する助言

11月 修了制作中間報告 助言指導

1月 修了制作プレゼンテーション

修了制作展

（個展開催・展覧会出品などに関してはその都度、助言指導を行う）

授業外学習

個展開催、展覧会出品、コンクール出品など、積極的に作品の発表を行う。

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は課題、各自の興味関心に合わせて適宜紹介する

備考

西洋画制作研究 I (AFM03)

通年

Western Painting Production I

大学院 美術専攻 (修士課程)

年次	1年
対象	22～20 FM
単位数	12.0単位
担当教員	近藤千晶 五十嵐英之 川上幸之介

授業の概要

[五十嵐]

これまで取り組んできた制作について見直し、今後の制作について考える。

専門的な技術や表現について、様々な作家の活動や作品を調査しその内容をまとめる。それらの情報について、自らの表現との関連性を分析する。時代性や社会とのかかわりについても意識し、制作制作を展開する。学外に出品できる作品を完成させる。

[近藤]

学部で取り組んだ制作のコンセプトや表現方法を検証し、今後の方向性や可能性を再考する。

見出された問題点について展開や深化の方法を探り、自ら課題を設定し、修士課程での研究計画書を作成する。作成した計画書を基に制作研究を展開する。

[アクティブラーニング] 自らの作品に関してプレゼンテーションを行う。

[フィードバック] 作品に対する講評や省察などフィードバックを含めた指導を行う。

[川上]

本講では、卒業後の学生が現代美術家として自立するための一助となるよう、外向的なプレゼンテーションの観点から実践的な素養とスキルを身に付けることを目的とする。さまざまな歴史的ルーツをもつ視覚言語が混在している現状にあって、各自の制作活動が国内外においてどのような意味をもちえるかを俯瞰的に考察し、オーディエンスに的確に活動内容を伝えるための伝達手段を探る。美術家の活動は作品の制作に終わるのではなく、作品を始点として鑑賞者の思考を促すディスコースへの参与、美術マーケットや既存媒体へのアクセスなど幅広くあるため、本講ではスタジオ制作後の活動について講義前半で概観したあと、チュートリアル形式で各自の制作活動を言語化し、和・英文による作家ステイトメントおよびプレゼンテーションの作成を行う。

到達目標

[五十嵐]

自らのポートフォリオを作成し、これまでの展開を振り返る。

自らの作品と関連性のある作家について、資料を作成する。

自らの作品を完成させる。

[近藤]

①作品のオリジナリティーを追求しながらも、時代性、普遍性と言った現代美術の抱えている諸問題と照らし合わせ、制作の裏付けを繰り返し探りながら制作研究を展開することができる。

②制作した作品をどのように発表し、社会や他者とコミットしていくか探ることができる。

[川上]

・和・英文による各自の作家ステイトメントおよびプレゼンテーションを作成する。

・助成、アワード、レジデンシーなどの申請プロセスを学ぶ。

・作家として必要となる対外的なスキルの実践的な下準備をする。

評価方法

[五十嵐]

レポート等の提出物50%

完成作品50%

[近藤]

作品及び研究レポート、プレゼンテーション (①) に関する評価80%、学内外での研究発表 (②個展及び展覧会やコンクールへの出品) の状況に関する評価20%

[川上]

作家ステイトメントおよびバイオグラフィーの提出テキスト（50%・評価対象は和文のみ）、およびオーラル・プレゼンテーション（50%）で総合評価する。

注意事項

学外プロジェクトや、学外研修（展覧会見学など）の学生リーダーとしての役割を課す場合がある。

授業計画

- 1、オリエンテーション（近藤・五十嵐・川上）
- 2、研究テーマと計画（近藤・五十嵐・川上）
- 3、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 4、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 5、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 6、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 7、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 8、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 9、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 10、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 11、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 12、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 13、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 14、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 15、中間研究発表会（近藤・五十嵐・川上）
- 16、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 17、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 18、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 19、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 20、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 21、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 22、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 23、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 24、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 25、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 26、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 27、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 28、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 29、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
- 30、研究発表会（近藤・五十嵐・川上）

授業外学習

〔五十嵐〕

自らの表現との関連性のある作家等の資料を収集するため、美術館や美術関係施設に行って調査活動をおこなう。

〔近藤〕

作品や制作に関する考察のための作家研究レポートの提出（授業内で発表）

〔川上〕

講義前に予習し理解できない点を挙げ、講義で理解できるようにすること。質問は随時受け付けるので、理解できなかった箇所は質問すること。

教科書

〔五十嵐〕・『Live with Drawing』描き合うこと 描き続ける事 ・『Live with Drawing』視点 精神分析・『Live with Drawing』五感・授受

〔近藤〕 参考資料は作品の内容に合わせて個別に配布する。

〔川上〕 参考資料はプリントし、配布する。また、国際展や現代アートの解説の際には、プロジェクターやモニターを用いる。

参考書

参考文献は、適宜紹介する。

備考

西洋画制作研究Ⅱ（AFM04）

通年

Western Painting Production II

大学院 美術専攻（修士課程）

年次	2年
対象	21～19 FM
単位数	12.0単位
担当教員	近藤千晶 五十嵐英之 川上幸之介

授業の概要

〔五十嵐〕 自らの作品ポートフォリオを完成させ、作品のコンセプトや今後の展開について考える。他者作品に関する資料を収集し、その資料と自らの実作品との関連性について論述する。実験的に作品を制作しながら、修了制作につながる作品を複数点完成させる。

〔近藤〕

西洋画制作研究Iで作成した研究計画書に沿って、制作の展開や深化を追求するが、制作の多角性や柔軟性にも目を向け、さらなる幅を持った制作研究を展開する。

修了作品に向けて制作を重ねる。

【アクティブラーニング】 自らの作品に関してプレゼンテーションを行う。

【フィードバック】 作品に対する講評や省察などフィードバックを含めた指導を行う。

〔川上〕

本講では、卒業後の学生が現代美術家として自立するための一助となるよう、外向的なプレゼンテーションの観点から実践的な素養とスキルを身に付けることを目的とする。さまざまな歴史的ルーツをもつ視覚言語が混在している現状にあって、各自の制作活動が国内外においてどのような意味をもちえるかを俯瞰的に考察し、オーディエンスに的確に活動内容を伝えるための伝達手段を探る。美術家の活動は作品の制作に終わるのではなく、作品を始点として鑑賞者の思考を促すディスコースへの参与、美術マーケットや既存媒体へのアクセスなど幅広くあるため、本講ではスタジオ制作後の活動について講義前半で概観したあと、チュートリアル形式で各自の制作活動を言語化し、和・英文による作家ステイメントおよびプレゼンテーションの作成を行う。

到達目標

〔五十嵐〕

- 卒業後の活動へとつながるポートフォリオを完成させる。
- 自らの作品分析レポートを題目をつけて完成させる。
- 実作品を複数点完成させ、表現上最も相応しい展示を行う。

〔近藤〕

作品の内容に加え、ディスカッションや合評会を通じて、自らの作品について語り、他者に向けて魅力的で、論理的で説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。

個展、展覧会やコンクール出品、プロジェクト参加など、作品をどのように発表して行くか、どのように社会に向けて発信し他者とコミットして行くかを模索することができる。

修士課程での集大成として、今後の作家活動につながる修了作品を完成させることができる。

〔川上〕

- 和・英文による各自の作家ステイメントおよびプレゼンテーションを作成する。
- 助成、アワード、レジデンシーなどの申請プロセスを学ぶ。
- 作家として必要となる対外的なスキルの実践的な下準備をする。

評価方法

修了作品を中心とした作品及び研究レポート、授業内でのプレゼンテーションに関する評価70%、学内外での研究発表（個展及び展覧会やコンクールへの出品）の状況に関する評価20%、その他受講状況など平常点10%

注意事項

学外プロジェクトや、学外研修（展覧会見学など）の学生リーダーとしての役割を課す場合がある。

授業計画

- 1、オリエンテーション（近藤・五十嵐・川上）
 - 2、研究テーマと計画（近藤・五十嵐・川上）
 - 3、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 4、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 5、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 6、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 7、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 8、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 9、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 10、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 11、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 12、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 13、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 14、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 15、中間研究発表会（近藤・五十嵐・川上）
 - 16、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 17、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 18、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 19、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 20、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 21、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 22、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 23、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 24、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 25、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 26、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 27、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 28、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 29、実制作およびレポート作成（近藤・五十嵐・川上）
 - 30、研究発表会（近藤・五十嵐・川上）
-

授業外学習

[五十嵐]

影響を受ける作家や作品の調査活動として、作家のアトリエや美術館などを訪問する。

[近藤]

自作のコンセプトの文章化、社会に向けた発信や他者とのコミットに関する方法論に関するレポートの提出（授業内で発表）

[川上]

講義前に予習し理解できない点を挙げ、講義で理解できるようにすること。質問は随時受け付けるので、理解できなかった箇所は質問すること。

教科書

特に使用しない。

参考書

参考文献は、適宜紹介する。

備考

映像制作研究 I (AFM05)

通年

Visual Image Research I

大学院 美術専攻 (修士課程)

年次	1年
対象	22～20 FM
単位数	12.0単位
担当教員	 近藤研二  馬場始三  小出肇  中川浩一  丸田昌宏

授業の概要

映像やデザインにかかわる分野で、芸術・文化・情報科学・社会科学などの幅広い視点の中で学部教育で得たあらゆるメディアにおける表現技術を基に、「情報化社会」に対応した、コンテンツを企画・制作できる人材の養成を目標として制作研究を行う。

到達目標

- 1 映像制作研究の基本となる各手法を理解し、自ら実践できる。
- 2 研究の成果を論文や作品としてまとめる。
- 3 成果物を社会に発表する。

評価方法

- ・到達目標1は授業に取り組む態度・姿勢、2は課題、3は最終の成果発表により評価し総合計60点以上を合格とする。
- ・評価の比率は、態度・姿勢30%、課題60%、成果発表10%を基準とする。

注意事項

締め切り厳守とする。

授業計画

第1週～第30週 (近藤・小出・中川・丸田・馬場)

- ☆ジャンルやデバイスにとらわれない自由な映像作品を、企画から制作まで実践を通して創造する。
- ☆各自の実制作、研究の進行状況に応じて適宜指導を行う。
- ☆作品完成後の合評

授業外学習

各自の研究テーマに関して情報を収集すること。

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は、適宜紹介する。

備考

映像制作研究Ⅱ (AFM06)

通年

Visual Image Research Ⅱ

大学院 美術専攻 (修士課程)

年次	2年
対象	21～19 FM
単位数	12.0単位
担当教員	 近藤研二  馬場始三  小出肇  中川浩一  丸田昌宏

授業の概要

制作研究Ⅰの後続研究である。制作研究Ⅰで研究したテーマをさらに発展させ、各自が取り組んできたテーマを質的な向上を目指して制作研究を行う。

到達目標

- 1 映像制作研究の基本となる各手法を理解し、自ら実践できる。
- 2 研究の成果を論文や作品としてまとめる。
- 3 成果物を社会に発表する。

評価方法

- ・到達目標1は授業に取り組む態度・姿勢、2は課題、3は最終の成果発表により評価し総合計60点以上を合格とする。
- ・評価の比率は、態度・姿勢30%、課題60%、成果発表10%を基準とする。

注意事項

※各自の実制作、研究の進行状況に応じて適宜指導を行う。

授業計画

第1週～第30週 (近藤・小出・中川・丸田・馬場)

- ☆ジャンルやデバイスにとらわれない自由な映像作品を、企画から制作まで実践を通して創造する。
- ☆各自の実制作、研究の進行状況に応じて適宜指導を行う。
- ☆作品完成後の合評

授業外学習

各自の研究テーマに関して情報を収集すること。

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は、適宜紹介する。

備考

彫刻制作研究 I (AFM07)

通年

Sculpture Research I

大学院 美術専攻 (修士課程)

年次	1年
対象	22～20 FM
単位数	12.0単位
担当教員	田丸稔

授業の概要

塑造による具象表現、また各種素材を用いた環境造形や彫刻表現全般に関わる構成や秩序、技法等の総合的な研究を通して、表現の多様性を探り、質の高い制作表現の追求をする。

到達目標

環境造形や彫刻表現全般に関わる構成や秩序、技法等の総合的な研究の質的達成を目標とし、作品4点以上の提出を課す。

評価方法

研究レポートおよびゼミナール形式の研究会における発表の状況に関する評価50%、学内外での研究発表（個展および展覧会等への出品）の状況についての評価50%とし、担当教員が協議して決定する。

注意事項

学内外での研究発表（個展および展覧会等）を推奨する。

授業計画

オリエンテーション

研究テーマと計画

実制作およびレポート作成

中間研究発表会

実制作およびレポート作成

研究発表会

授業外学習

授業時間外は1週間 12時間以上、自己の制作研究に集中し、理論的考察を試みる。

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は、適宜案内する。

備考

彫刻制作研究Ⅱ (AFM08)

通年

Sculpture Research Ⅱ

大学院 美術専攻 (修士課程)

年次	2年
対象	21～19 FM
単位数	12.0単位
担当教員	田丸稔

授業の概要

彫刻制作研究Ⅰの継続研究として、塑造および環境造形、において、各自が取り組んできた各種の研究を、より高次の次元へと質を深める。

到達目標

環境造形や彫刻表現全般に関わる構成や秩序、技法等の総合的な研究の質的達成を目標とし、作品4点以上の提出を課す。

評価方法

研究レポートおよびゼミナール形式の研究会における発表の状況に関する評価50%、学内外での研究発表（個展および展覧会等への出品）の状況についての評価50%とし、担当教員が合議して決定する。

注意事項

学内外での研究発表（個展および展覧会等）を推奨する。

授業計画

- 1、オリエンテーション
- 2、研究テーマと計画
- 3、実制作およびレポート作成
- 4、実制作およびレポート作成
- 5、実制作およびレポート作成
- 6、実制作およびレポート作成
- 7、実制作およびレポート作成
- 8、実制作およびレポート作成
- 9、実制作およびレポート作成
- 10、実制作およびレポート作成
- 11、実制作およびレポート作成
- 12、実制作およびレポート作成
- 13、実制作およびレポート作成
- 14、実制作およびレポート作成
- 15、中間研究発表会
- 16、実制作およびレポート作成
- 17、実制作およびレポート作成
- 18、実制作およびレポート作成
- 19、実制作およびレポート作成
- 20、実制作およびレポート作成
- 21、実制作およびレポート作成
- 22、実制作およびレポート作成
- 23、実制作およびレポート作成
- 24、実制作およびレポート作成
- 25、実制作およびレポート作成
- 26、実制作およびレポート作成
- 27、実制作およびレポート作成
- 28、実制作およびレポート作成
- 29、実制作およびレポート作成
- 30、研究発表会

授業外学習

授業時間外は1週間12時間以上、自己の制作研究に集中し、理論的考察を試みる。

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は、適宜案内する。

備考

現代映像論 (AFM18)

後期

Contemporary Visual Image Theory

大学院 美術専攻 (修士課程)

年次	1年
対象	22～19 FM
単位数	2.0単位
担当教員	小出肇

授業の概要

いわゆる商業映画以外の映画——実験映画、前衛映画、等を見つつ、ビデオで自らの日常等を撮影し、それを作品として完成させる。実際に撮ったものを編集し、作品化することによって、映像が溢れている現代における映像の可能性を探っていきつつ、コンテンポラリー・アートとしての映像作品の可能性をも追求したい。テーマに沿った課題作品を3回制作する。
【フィードバック】
課題作品の発表を行い講評を行う。

到達目標

ビデオを絵筆代わりに、自身の感覚を実験映像作品に結実できる。

評価方法

3本の課題作品の提出を必須とし、3本目の作品を評価の対象とする。
(平常点20%、課題作品80%)

注意事項

- ・通常はモニターのある教室を利用。
- ・編集をしながらの講義の場合PCのある教室で授業を行う。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション 実験映画とは何かの概念の説明
第2回	過去の実験映画を見て、ディスカッション
第3回	課題作品(絶対映画)の発表および合評
第4回	過去の実験映画を見てのディスカッション(1)
第5回	過去の実験映画を見てのディスカッション(2)
第6回	過去の実験映画を見てのディスカッション(3)
第7回	撮影素材を実際に編集しながらの検討(1)
第8回	撮影素材を実際に編集しながらの検討(2)
第9回	課題作品(音楽に合わせての映像の編集)の発表および合評
第10回	過去の実験映画を見てのディスカッション(1)
第11回	過去の実験映画を見てのディスカッション(2)
第12回	過去の実験映画を見てのディスカッション(3)
第13回	撮影素材を編集しながらの検討(1)
第14回	撮影素材を編集しながらの検討(2)
第15回	課題作品(テーマは自由)の発表および合評

授業外学習

学習時間のめやす; 合計60時間

- ・個々の企画内容により授業外での企画、撮影、編集を行う。
- ・企画内容により学外での撮影を行う場合もある。

教科書

使用しない

参考文献は、適宜紹介する。

参考書

授業内で適宜紹介する。

備考

Special Lecture I

大学院 美術専攻 (修士課程)

年次	1年
対象	22～19 FM
単位数	2.0単位
担当教員	 一瀬隼  井上文雄  新澤一平

授業の概要

本講では3人の講師、一瀬隼先生、井上文雄先生、新澤一平先生が、各5回の授業を担当する。実践と理論を含めた現代アートに影響を与えている政治理論、また映像編集技術、カメラ技術を学び、その思想と現代アートの新たな展開をつむぎだし、作品を構成する要素を再点検する。

一瀬隼

- ・3DCGの基礎知識と技術を講義と実習を通して学ぶ。

井上文雄

- ・同時代のアートを考えることと、社会的、政治的、経済的なことを考えることとを、分けることはできない。本講義では、ジェンダー/セクシュアリティ、人種・民族、移民・難民、国籍、障害、環境、紛争・戦争、格差・貧困、介護、差別など社会における諸問題に深く関わるアートのあり方を批評的に考える。

新澤一平

- ・デジタルカメラで写真を撮影するための基礎知識と技術をはじめ、撮影後のRAW現像、プリント、Web公開までデジタル写真の総合的な流れを講義と実習を通して学ぶ。

到達目標

一瀬隼

- ・最前線で活躍するプロに各専門分野の知識や技術を理解できる。
- ・職業としてのクリエイター/アーティストとしての意識を持つことができる。
- ・紹介される個々の事例について活発に質疑応答や討議を行い、それぞれの視座からの批評力・鑑賞力を持つことができる。
- ・メディア・アートの領域がいかにして「職業」とつながり社会に貢献しているかについて理解出来るようになる。
- ・自らの取り組みとの比較において、メディア・アート活動の重要性について理解出来るようになる。

井上文雄

- ・作家や作品、展覧会の背景を理解する
- ・作家や作品、展覧会の意図を理解する
- ・作家や作品、展覧会について批評的に考える技術を身につける

新澤一平

- ・デジタル写真の撮影からRAW現像、プリント、Web公開までの知識と技術を理解し、自らの表現や作品制作へ応用できる基礎を身に付ける。

評価方法

作品と授業に取り組む姿勢

井上文雄

- ・毎授業の議論への参加 (50%)、レポート (50%)

注意事項

特になし

授業計画

一瀬隼

1. 映像制作会社「Barehand Modeling Studio」の最新事例紹介と事例研究、作品講評、Maya実習
2. 映像制作会社「Barehand Modeling Studio」の最新事例紹介と事例研究、作品講評、Maya実習
3. 映像制作会社「Barehand Modeling Studio」の最新事例紹介と事例研究、作品講評、Maya実習
4. 映像制作会社「Barehand Modeling Studio」の最新事例紹介と事例研究、作品講評、Maya実習
5. まとめ

井上文雄

1. イントロダクション
2. アートと経済 1
3. アートと経済 2
4. アートと経済 3
5. アートと政治 1

新澤一平

1. Ippei Shinzawa Photographyの最新事例紹介と事例研究、作品講評、デジタルカメラ実習
2. Ippei Shinzawa Photographyの最新事例紹介と事例研究、作品講評、デジタルカメラ実習
3. Ippei Shinzawa Photographyの最新事例紹介と事例研究、作品講評、デジタルカメラ実習
4. Ippei Shinzawa Photographyの最新事例紹介と事例研究、作品講評、デジタルカメラ実習
5. まとめ

※受講生と相談しながら、変更することもある、また学外実習への変更もありうる。

授業外学習

一瀬隼

- ・MAYAの3DCG 技術を授業外でも研鑽すること

井上文雄

- ・授業で紹介した作家や作品、展覧会についてインターネットや書籍などで調べること

新澤一平

- ・デジタルカメラ技術を授業外でも研鑽すること

教科書

適宜指示する

参考書

適宜指示する

井上文雄

- ・クレア・ピショップ『人工地獄』
- ・ボリス・グロイス『アート・パワー』
- ・トニー・ゴドフリー『コンセプチュアル・アート』

そのほか、授業中に適宜紹介する。

備考

特別講義Ⅱ (AFM22)

後期

Special Lecture Ⅱ

大学院 美術専攻 (修士課程)

年次	1年
対象	22～19 FM
単位数	2.0単位
担当教員	 一瀬隼  井上文雄  新澤一平

授業の概要

本講では3人の講師、一瀬隼先生、井上文雄先生、新澤一平先生が、各5回の授業を担当する。実践と理論を含めた現代アートに影響を与えている、また映像編集技術、デジタルカメラ技術を学び、現代アートの新たな展開をつむぎだし、作品を構成する要素を再点検する。

到達目標

一瀬隼

- ・最前線で活躍するプロに各専門分野の知識や技術を理解できる。
- ・職業としてのクリエイター/アーティストとしての意識を持つことができる。
- ・紹介される個々の事例について活発に質疑応答や討議を行い、それぞれの視座からの批評力・鑑賞力を持つことができる。
- ・メディア・アートの領域がいかにして「職業」とつながり社会に貢献しているかについて理解出来るようになる。
- ・自らの取り組みとの比較において、メディア・アート活動の重要性について理解出来るようになる。

井上文雄

- ・作家や作品、展覧会の背景を理解する
- ・作家や作品、展覧会の意図を理解する
- ・作家や作品、展覧会について批評的に考える技術を身につける

新澤一平

- ・デジタル写真の撮影からRAW現像、プリント、Web公開までの知識と技術を理解し、自らの表現や作品制作へ応用できる基礎を身に付ける。

評価方法

作品と授業に取り組む姿勢

注意事項

特になし

授業計画

一瀬隼

1. 映像制作会社「Barehand Modeling Studio」の最新事例紹介と事例研究、作品講評、Maya実習
2. 映像制作会社「Barehand Modeling Studio」の最新事例紹介と事例研究、作品講評、Maya実習
3. 映像制作会社「Barehand Modeling Studio」の最新事例紹介と事例研究、作品講評、Maya実習
4. 映像制作会社「Barehand Modeling Studio」の最新事例紹介と事例研究、作品講評、Maya実習
5. まとめ

井上文雄

1. アートと政治 2
2. アートと政治 3
3. アートと社会 1
4. アートと社会 2
5. アートと社会 3

新澤一平

1. Ippei Shinzawa Photographyの最新事例紹介と事例研究、作品講評、デジタルカメラ実習
2. Ippei Shinzawa Photographyの最新事例紹介と事例研究、作品講評、デジタルカメラ実習
3. Ippei Shinzawa Photographyの最新事例紹介と事例研究、作品講評、デジタルカメラ実習
4. Ippei Shinzawa Photographyの最新事例紹介と事例研究、作品講評、デジタルカメラ実習
5. まとめ

授業外学習

一瀬隼

- ・ MAYAの3DCG 技術を授業外でも研鑽すること
- ・ 主には映画、VFX、3DCG、CM、プロモーション映像、アート映像、ゲーム映像、マンガ、アニメーション作品を鑑賞し、その制作意図や制作技法について可能な限りリサーチしておくこと。

井上文雄

- ・ 授業で紹介した作家や作品、展覧会についてインターネットや書籍などで調べること

新澤一平

- ・ デジタルカメラ技術を授業外でも研鑽すること

教科書

適宜指示する

参考書

適宜指示する

井上文雄

- ・ クレア・ビショップ『人工地獄』
- ・ ボリス・グロイス『アート・パワー』
- ・ トニー・ゴドフリー『コンセプチュアル・アート』

そのほか、授業中に適宜紹介する。

備考

メディアデザイン特論 (AFM17)

前期

Advanced studies of Media Design

大学院 美術専攻 (修士課程)

年次	1年
対象	22～19 FM
単位数	2.0単位
担当教員	菅野優香

授業の概要

この授業では、ジェンダー、セクシュアリティ、人種の交差に焦点を当てて、視覚文化について考える。視覚文化では、個別のイメージやメディアを扱うだけでなく、見ることや見せることに関する日常的実践を取り扱う。つまり、視覚を通じて社会がどのように構築されているのかを問うのが視覚文化という分野である。この授業では、美術史や映画・メディア研究、批評理論、クィア・スタディーズなどの領域を横断しながら、視覚文化における、見ること、見せることの意味を探索しようと思う。視覚や視覚性は、政治や美学とどのように関わっているのか？視覚文化を通じて、わたしたちの生きる現代社会はどのように生成されるのか？こうした問題についても議論する予定である。

到達目標

視覚文化におけるジェンダー、セクシュアリティ、人種の交差性について分析できるようになること。

- ・視覚文化を構成するさまざまな要素、テキストを批判的に読解できるようになること。
- ・視覚文化と、社会、政治、美学などの関係について学ぶこと。

評価方法

平常点（出席、議論への積極的な参加）：50%、シヨートペーパー：50%

注意事項

何らかの配慮や支援が必要な学生は事前に相談してください。

授業計画

回数	内容
第1回	視覚文化 (Visual Culture)とクィア・スタディーズ 1
第2回	視覚文化 (Visual Culture)とクィア・スタディーズ 2
第3回	視覚文化 (Visual Culture)とクィア・スタディーズ 3
第4回	政治と美学：ニュー・クィア・シネマ 1
第5回	政治と美学：ニュー・クィア・シネマ 2
第6回	政治と美学：ニュー・クィア・シネマ 3
第7回	フェミニズムと映画 1
第8回	フェミニズムと映画 2
第9回	フェミニズムと映画 3
第10回	アメリカのインディペンダント映画 1
第11回	アメリカのインディペンダント映画 2
第12回	アメリカのインディペンダント映画 3
第13回	ドキュメンタリー、実験映画、アヴァンギャルド 1
第14回	ドキュメンタリー、実験映画、アヴァンギャルド 2
第15回	ドキュメンタリー、実験映画、アヴァンギャルド 3

授業外学習

授業の前に課題テキストを必ず読んでくること。

教科書

授業の前に課題テキストを配布します。事前に読んでおいてください。

参考書

『「新」映画理論集成1—歴史・人種・ジェンダー』岩本憲児・武田潔・斉藤綾子編、フィルムアート社、1998年。

『アンチ・スペクタクル—沸騰する映像文化の考古学』長谷正人・中村秀之編、東京大学出版会、2003年。

ロラン・バルト『映像の修辞学』ちくま学芸文庫、2005年。

ロラン・バルト『ロラン・バルト映画論集』ちくま学芸文庫、1998年。

備考

Design Research I

大学院 美術専攻 (修士課程)

年次	1年
対象	22～20 FM
単位数	12.0単位
担当教員	● 後藤秀典 ● クリスウォルトン ● 柳田宏治

授業の概要

自身のテーマでデザイン研究の計画立案、実施、評価を行い、成果をまとめる。研究に当たっては、基本となる各種デザイン手法・技法を学習し、応用して取り組む。また、研究成果は研究会や展示会などで発表する。

【アクティブラーニング】問題解決学習、調査学習、グループ・ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】研究に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- ・デザイン研究の基本となる各種デザイン手法を理解、実践できるようになる。
- ・研究の成果を論文や作品としてまとめる。
- ・成果物を社会に発表する。

評価方法

授業に取り組む姿勢50%、提出作品50%で評価を行う。

注意事項

- ・各種の実験データ、写真、資料、評価等は常に記録、保存し、研究報告書作成に役立てること。
- ・調査や発表等で学外で授業を行うことがある。

授業計画

- 授業計画01：前期オリエンテーション（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画02：制作研究計画1 計画企画（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画03：制作研究計画2 作成（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画04：制作研究計画3 作成2（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画05：制作研究計画4 計画書 発表 評価（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画06：制作研究事前調査1 調査企画（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画07：制作研究事前調査2 調査実施計画書 作成（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画08：制作研究事前調査3 実施1（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画09：制作研究事前調査4 実施2（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画10：制作研究事前調査5 調査報告書 発表 評価（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画11：制作研究構想1 構想企画（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画12：制作研究構想2 作成1（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画13：制作研究構想3 作成2（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画14：制作研究構想4 構想計画書 発表（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画15：制作研究構想5 評価 前期まとめ（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画16：後期オリエンテーション（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画17：制作研究調査1 調査企画（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画18：制作研究調査2 実施計画書作成（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画19：制作研究調査3 調査実施（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画20：制作研究調査4 調査報告書作成（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画21：制作研究調査5 発表/評価（後藤・柳田・ウォルトン）

授業計画22：制作研究設計1 設計企画（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画23：制作研究設計2 制作方法検証（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画24：制作研究設計3 制作実施（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画25：制作研究設計4 制作調整（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画26：制作研究設計5 制作研究発表（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画27：制作研究設計6 制作研究評価（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画28：制作研究報告1 研究報告書作成（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画29：制作研究報告2 研究報告書発表（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画30：制作研究報告3 研究報告書評価 後期まとめ（後藤・柳田・ウォルトン）

授業外学習

- ・デザイン研究は、自身でスケジュールを立てて日々取り組むこと。
 - ・学内外で発表の機会を作ること。（展示会の実施や論文集への掲載など）
 - ・学習時間の目安：合計360時間
-

教科書

使用しない。

参考書

参考文献・資料等は、適宜紹介する。

備考

デザイン計画研究Ⅱ (AFM10)

通年

Design Research Ⅱ

大学院 美術専攻 (修士課程)

年次	2年
対象	21～19 FM
単位数	12.0単位
担当教員	● 後藤秀典 ● クリスウォルトン ● 柳田宏治

授業の概要

デザイン計画研究Ⅱの展開として、自身のテーマでデザイン研究の計画立案、実施、評価を行い、成果をまとめる。研究に当たっては、基本となる各種デザイン手法・技法を学習し、応用して取り組む。また、研究成果は研究会や展示会などで発表する。

【アクティブラーニング】問題解決学習、調査学習、グループ・ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】研究に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- ・デザイン計画研究Ⅱの展開として、さらに応用的な各種デザイン手法を理解、実践できるようになる。
- ・研究の成果を論文や作品としてまとめる。
- ・成果物を社会に発表する。

評価方法

授業に取り組む姿勢50%、提出作品50%で評価を行う。

注意事項

- ・各種の実験データ、写真、資料、評価等は常に記録、保存し、研究報告書作成に役立てること。
- ・調査や発表等で学外で授業を行うことがある。

授業計画

- 授業計画01：前期オリエンテーション（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画02：制作研究計画1 計画企画（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画03：制作研究計画2 計画書作成（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画04：制作研究計画3 計画書発表（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画05：制作研究計画4 計画書評価（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画06：事前調査1 調査企画（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画07：事前調査2 実施計画書作成（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画08：事前調査3 調査実施（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画09：事前調査4 調査報告書作成（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画10：事前調査5 発表/評価（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画11：制作研究構想1 構想企画（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画12：制作研究構想2 計画書作成（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画13：制作研究構想3 計画書発表（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画14：制作研究構想4 計画書評価（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画15：前期まとめ（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画16：後期オリエンテーション（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画17：制作研究調査1 調査企画（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画18：制作研究調査2 実施計画書作成（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画19：制作研究調査3 調査実施（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画20：制作研究調査4 調査報告書作成（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画21：制作研究調査5 発表/評価（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画22：制作研究設計1 設計企画（後藤・柳田・ウォルトン）

授業計画23：制作研究設計2 制作方法検証（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画24：制作研究設計3 制作実施（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画25：制作研究設計4 制作調整（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画26：制作研究設計5 制作研究発表（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画27：制作研究設計6 制作研究評価（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画28：制作研究報告1 研究報告書作成（後藤上・柳田・ウォルトン）
授業計画29：制作研究報告2 研究報告書発表（後藤・柳田・ウォルトン）
授業計画30：後期まとめ（後藤・柳田・ウォルトン）

授業外学習

- ・デザイン研究は、自身でスケジュールを立てて日々取り組むこと。
 - ・学内外で発表の機会を作ること。（展示会の実施や論文集への掲載など）
 - ・学習時間の目安：合計360時間
-

教科書

使用しない。

参考書

参考文献・資料等は、適宜紹介する。

備考

Design Presentation Theory

大学院 美術専攻 (修士課程)

年次	1年
対象	22～19 FM
単位数	2.0単位
担当教員	● 後藤秀典 ● クリスウォルトン ● 柳田宏治

授業の概要

近代・現代のデザイン表現を幅広く紹介し、それぞれの受講生の研究テーマ（グラフィック、テキスタイル、イラストレーション、プロダクト、空間デザイン、情報デザイン、その他）に対応した講義を行う。受講者にテーマ設定、企画立案、プレゼンテーションなどを行ってもらおう。

到達目標

- ・ 修士課程学生にふさわしい、デザイン表現についての国際的な知見や、視野を獲得する。
- ・ 大学院で行う個別のデザイン活動、美術活動と結び付いた、実践的で高度な表現を得る。
- ・ 情報デザインなど、新しい分野の知見と活動を積極的に活用できる。

評価方法

- (1) 授業に取り組む態度・姿勢および質疑応答。
- (2) 研究課題のプレゼンテーション。
- (3) レポートなどの提出物。

以上3点によって評価する。評価比率は、(1) = 10%、(2) = 40%、(3) = 50%の割合とする。

注意事項

- ・ 美術専攻の博士課程前期にふさわしい水準の取り組みを行う。
- ・ 視察などのために学外実習を行うことがある。
- ・ 一部を集中授業で行うことがあるのでスケジュールに注意すること。

授業計画

授業計画01：オリエンテーション

授業計画02：デザイン表現論・概論1「現代デザインの展開」構成主義、バウハウスから情報デザインまで〈後藤・柳田・ウォルトン〉

授業計画03：デザイン表現論・概論2「情報とデザイン」〈後藤・柳田・ウォルトン〉

授業計画04：デザイン表現論・概論3「メディアとデザイン」情報芸術、メディア芸術など〈後藤・柳田・ウォルトン〉

授業計画05：デザイン表現の研究(1)「ビジュアルが語る」直感的な訴求力〈後藤・柳田・ウォルトン〉

授業計画06：デザイン表現の研究(2)「ビジュアルが与える」心理作用〈後藤・柳田・ウォルトン〉

授業計画07：デザイン表現の研究(3)：デザインと信頼性〈後藤・柳田・ウォルトン〉

授業計画08：デザイン表現の研究(4)：視覚の力学(視線誘導、可視性など)〈後藤・柳田・ウォルトン〉

授業計画09：デザイン表現の事例(1)：製品デザイン〈後藤・柳田・ウォルトン〉

授業計画10：デザイン表現の事例(2)：サービスデザイン〈後藤・柳田・ウォルトン〉

授業計画11：デザイン表現の実践(1)：テーマ設定〈後藤・柳田・ウォルトン〉

授業計画12：デザイン表現の実践(2)：調査〈後藤・柳田・ウォルトン〉

授業計画13：デザイン表現の実践(3)：問題定義～コンセプト構築〈後藤・柳田・ウォルトン〉

授業計画14：デザイン表現の実践(4)：アイデア創出～デザイン設計・表現〈後藤・柳田・ウォルトン〉

授業計画15：デザイン表現の実践(5)：プレゼンテーション〈後藤・柳田・ウォルトン〉

授業外学習

- ・ 参考資料の調査、検索、読書が多く求められる。
- ・ 展覧会、見学、ワークショップなど校外での知見の拡大行う場合もある。

・学習時間の目安：合計60時間

教科書

適宜資料を配布する。

参考書

適宜紹介する。

備考

デザイン計画論 (AFM20)

前期

Design Planning Theory

大学院 美術専攻 (修士課程)

年次	1年
対象	22～19 FM
単位数	2.0単位
担当教員	● 後藤秀典 ● クリスウォルトン ● 柳田宏治

授業の概要

ユーザー、ビジネス、社会の3つの観点からデザインの役割と可能性を考察し、各種デザイン手法研究や最前線のデザイン事例研究を通して、実践的なデザイン計画ができるよう指導する。

【アクティブラーニング】問題解決学習、調査学習、グループ・ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】研究に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- ・デザイン計画に必要な各種デザイン手法を理解し実践できる。
- ・デザイン計画のプロセスを理解し、各種デザイン手法を用いて実践的なデザイン計画を策定できる。

評価方法

- ・レポートやプレゼンテーション等の提出物50%、授業に取り組む姿勢50%で評価する。

注意事項

- ・調査、研修等のため学外で授業を行うことがある。
- ・専門分野に応じてクラス分けして個々の教員がそれぞれ15回担当する。

授業計画

- 授業計画01：ユーザー、ビジネス、社会とデザイン (1)：デザイン計画の要素〈後藤・柳田・ウォルトン〉
- 授業計画02：ユーザー、ビジネス、社会とデザイン (2)：デザイン計画のフレームワーク〈後藤・柳田・ウォルトン〉
- 授業計画03：デザイン計画の手法 (1)：調査手法〈後藤・村上・柳田・ウォルトン〉
- 授業計画04：デザイン計画の手法 (2)：問題定義、コンセプト構築手法〈後藤・柳田・ウォルトン〉
- 授業計画05：デザイン計画の手法 (3)：発想手法〈後藤・柳田・ウォルトン〉
- 授業計画06：デザイン計画の事例 (1)：製品デザイン〈後藤・柳田・ウォルトン〉
- 授業計画07：デザイン計画の事例 (2)：サービスデザイン〈後藤・柳田・ウォルトン〉
- 授業計画08：デザイン計画の事例 (3)：ソーシャルデザイン〈後藤・柳田・ウォルトン〉
- 授業計画09：デザイン計画の実践 (1)：テーマ設定〈後藤・柳田・ウォルトン〉
- 授業計画10：デザイン計画の実践 (2)：調査〈後藤・柳田・ウォルトン〉
- 授業計画11：デザイン計画の実践 (3)：問題定義～コンセプト構築〈後藤・柳田・ウォルトン〉
- 授業計画12：デザイン計画の実践 (4)：アイデア創出～デザイン設計・表現〈後藤・柳田・ウォルトン〉
- 授業計画13：デザイン計画の実践 (5)：商品化計画〈後藤・柳田・ウォルトン〉
- 授業計画14：デザイン計画の実践 (6)：プレゼンテーション〈後藤・柳田・ウォルトン〉
- 授業計画15：総括〈後藤・柳田・ウォルトン〉

授業外学習

- ・常に実社会における最前線のデザイン計画の事例に関心を持ちリサーチを行うこと。

教科書

適宜資料を配布する。

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	1年
対象	22～20 FM
単位数	12.0単位
担当教員	 磯谷晴弘  張慶南

授業の概要

これまで制作してきた作品を振り返り、その良いところと足りない所を、距離をおいて客観的に振り返るところからはじめる。一度リセットするつもりで、コンセプト、制作技法、方法論、を検証する。工芸作品として、技法や細部に捕らわれすぎて近視眼的になりがちである事をふまえ、自分の目指す立ち位置を確認する。(磯谷)

窯の仕事 (KILN) でなにが出来るかを考える。

窯を使って造るガラスの表情は様々である。温度と窯入れの環境などでガラスは色々な表情に変化し作家にその変化を見せてくれる。

作家の作為で造られた部分と作家の作為とは違って、無作為で造られるところもある。

どちらも捨て固いところがあることを認識し、自分の作品造りのために実験と試作を繰り返し、自分の作品造りの可能性を広げていきたいと思う。(張)

到達目標

造る事の意味を考えた作品を目指す。時間をかけて作品を造り、その作品を感じ、論ずることが出来る事を目指す。

評価方法

制作態度など20%、作品の評価80%

注意事項

考える幅を狭くしないようにする。様々な可能性を探るように心がける。

授業計画

回数	内容
第1回	前期計画作成 (磯谷・張)
第2回	ディスカッション (磯谷・張)
第3回	ディスカッション (磯谷・張)
第4回	ディスカッション (磯谷・張)
第5回	作品講評 (磯谷・張)
第6回	ディスカッション (磯谷・張)
第7回	ディスカッション (磯谷・張)
第8回	ディスカッション (磯谷・張)
第9回	作品講評 (磯谷・張)
第10回	ディスカッション (磯谷・張)
第11回	ディスカッション (磯谷・張)
第12回	ディスカッション (磯谷・張)
第13回	ディスカッション (磯谷・張)
第14回	ディスカッション (磯谷・張)

回数	内容
第15回	前期総評（磯谷・張）
第16回	後期計画作成（磯谷・張）
第17回	ディスカッション（磯谷・張）
第18回	ディスカッション（磯谷・張）
第19回	ディスカッション（磯谷・張）
第20回	作品講評（磯谷・張）
第21回	ディスカッション（磯谷・張）
第22回	ディスカッション（磯谷・張）
第23回	ディスカッション（磯谷・張）
第24回	作品講評（磯谷・張）
第25回	ディスカッション（磯谷・張）
第26回	ディスカッション（磯谷・張）
第27回	ディスカッション（磯谷・張）
第28回	ディスカッション（磯谷・張）
第29回	ディスカッション（磯谷・張）
第30回	後期総評（磯谷・張）

授業外学習

自分の作品を発表する事を心かける。また、他の作家の作品を観覧する事で形体や素材などについて研究する。

教科書

使用しない。

参考書

適宜指示する。

備考

年次	2年
対象	21～19 FM
単位数	12.0単位
担当教員	 磯谷晴弘  張慶南

授業の概要

自分（コンセプト）と素材と技法の最適な関係を見つけ出す。その関係は時として心地よいものではないかも知れないが、チャレンジすることを心掛ける。いちど構築された関係性は、以前に比べて強固なものになっているはずである。（磯谷）

オリジナル作品を目指してほしい。

造ることについて自信を持つことは大事である。しかし、自信感のある作品を造ることは他のものが持ってなくて、自分だけが持つことにつながることもある。

このような差別化を持つことは、オリジナル性の高い作品を持つと同時に、自信感を得ることになる。修了制作展と修了してからの作家活動まで考えた作品造りを構築する授業にしたいと思う。また、他のガラス作家の作品展をよく見るとともに、違う素材を使った作品からも様々な検証とともに理解を深めることをしたいと思う。（張）

到達目標

造る事の意味を考えた作品を目指す。時間をかけて作品を造り、その作品を感じ、論ずることが出来る事を目指す。

修了制作の完成と研究報告書の作成。

評価方法

制作態度など20%、作品の評価80%

注意事項

考える幅を狭くしないようにする。様々な可能性を探るように心かける。

授業計画

回数	内容
第1回	前期計画作成（磯谷・張）
第2回	ディスカッション（磯谷・張）
第3回	ディスカッション（磯谷・張）
第4回	ディスカッション（磯谷・張）
第5回	作品講評（磯谷・張）
第6回	ディスカッション（磯谷・張）
第7回	ディスカッション（磯谷・張）
第8回	ディスカッション（磯谷・張）
第9回	作品講評（磯谷・張）
第10回	ディスカッション（磯谷・張）
第11回	ディスカッション（磯谷・張）
第12回	ディスカッション（磯谷・張）
第13回	ディスカッション（磯谷・張）

回数	内容
第14回	ディスカッション（磯谷・張）
第15回	前期総評（磯谷・張）
第16回	後期計画作成（磯谷・張）
第17回	ディスカッション（磯谷・張）
第18回	ディスカッション（磯谷・張）
第19回	ディスカッション（磯谷・張）
第20回	作品講評（磯谷・張）
第21回	ディスカッション（磯谷・張）
第22回	ディスカッション（磯谷・張）
第23回	ディスカッション（磯谷・張）
第24回	作品講評（磯谷・張）
第25回	ディスカッション（磯谷・張）
第26回	ディスカッション（磯谷・張）
第27回	ディスカッション（磯谷・張）
第28回	ディスカッション（磯谷・張）
第29回	ディスカッション（磯谷・張）
第30回	後期総評（磯谷・張）

授業外学習

自分の作品を発表する事を心かける。また、他の作家の作品を観覧する事で形体や素材などについて研究する。

教科書

使用しない。

参考書

適宜指示する。

備考

年次	1年
対象	22～19 FM
単位数	2.0単位
担当教員	三宅通博

授業の概要

陶磁器、ガラス、繊維、染色などの工芸に利用されている材料の基礎と応用について説明する。更に、代表的な分析機器による材料の評価法を解説する。

到達目標

工芸に用いられている材料の特性を理解し、制作活動に材料科学的な視点を活かせるように指導する。

評価方法

課題に関するレポートで評価する。レポート(100%)で評価する。

注意事項

材料化学的な視点は作品制作に縁遠いようであるが、将来役に立つと思われるので、休まず続けて出席することが重要である。なお進捗状況により、講義内容を変更することがある。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、工芸材料
- 第2回 材料物質の性質
- 第3回 固体化学の基礎 (I)
- 第4回 固体化学の基礎 (II)
- 第5回 陶磁器材料 (I)
- 第6回 陶磁器材料 (II)
- 第7回 ガラス材料 (I)
- 第8回 ガラス材料 (II)
- 第9回 繊維、染色材料
- 第10回 材料の評価法 (I) ; X線分析法
- 第11回 材料の評価法 (II) ; 蛍光X線分析法
- 第12回 材料の評価法 (III) ; 熱分析法
- 第13回 材料の評価法 (IV) ; 電子顕微鏡法
- 第14回 材料の評価法 (V) ; 分光法
- 第15回 材料の安全性と有害性、まとめ

授業外学習

講義で説明した内容について、配布資料を読んで復習し、理解できなかった箇所を質問すること。

教科書

資料を配布する。

参考書

必要に応じて適宜紹介する

備考